

教育発の地方創生モデル ～大学生と行政の協働で“つむぐ” 牟岐町の取り組みより～

牟岐町教育委員会 教育次長 久米寧
NPO法人ひとつむぎ 理事 山本将也

ひとつむぎ紹介



- HLAB徳島サマースクールの実行委員メンバーが中心に発足
- 大学生が主体となって、事業の立案、運営、行政折衝、会計処理を行う稀有な団体。
- 現在大学生17名、社会人2名(学生時代に発足に関与)、社会人顧問3名
- 大学生は、全国各地の大学に所属している。

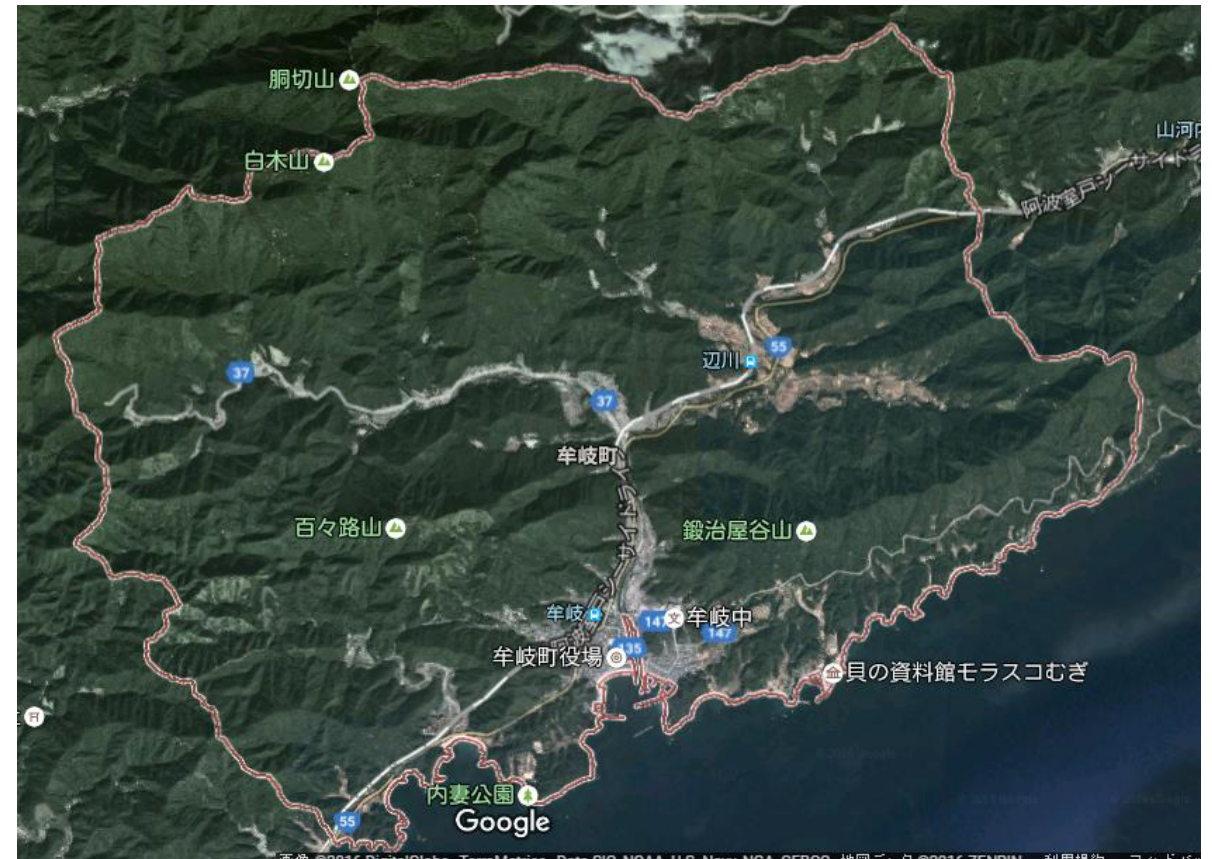


牟岐町の概要



牟岐町の概要①

- 徳島市内から車で約1時間30分
- 大阪から約4時間～4時間半



牟岐町の概要②

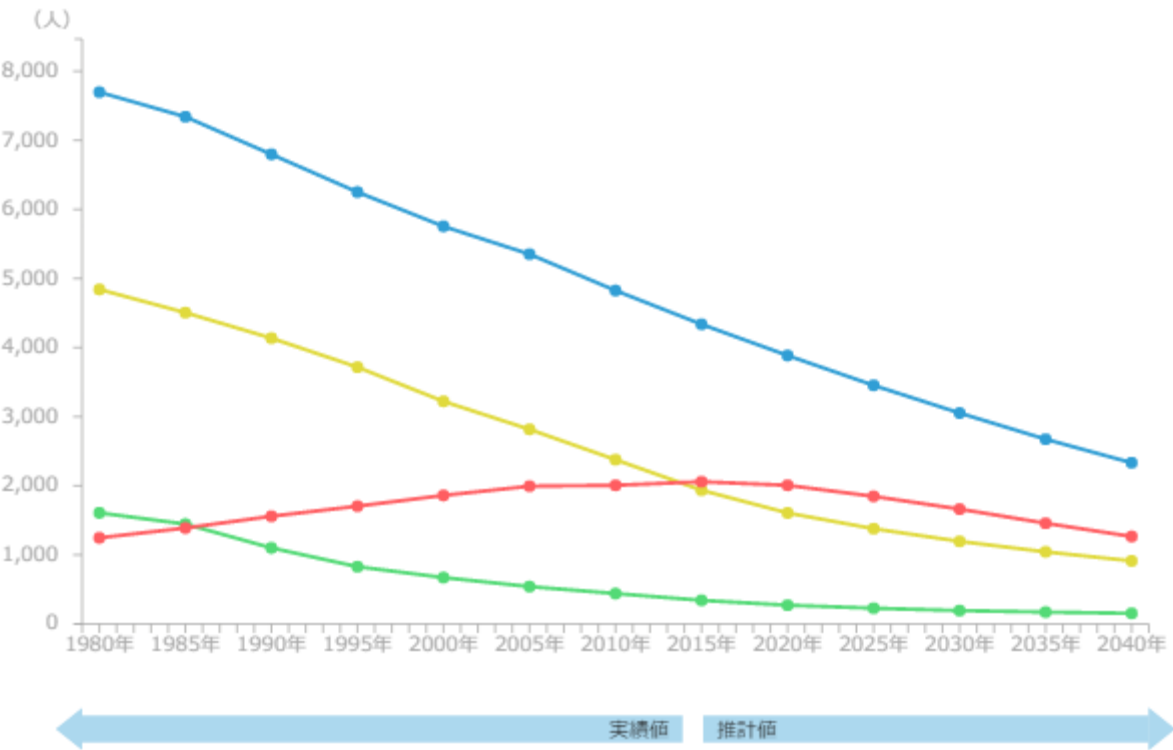


牟岐町は、2010年時点で人口4826人。老年人口の割合は41.5%であり、急速に少子高
齢化が進行している。

人口推移

徳島県牟岐町

● 総人口 ● 年少人口 ● 生産年齢人口 ● 老年人口

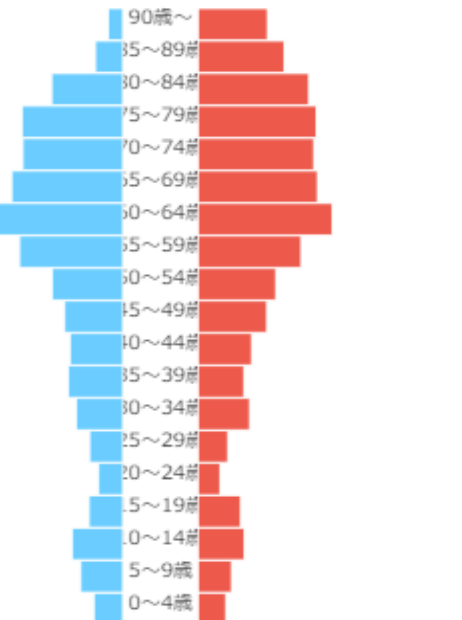


人口ピラミッド

徳島県牟岐町

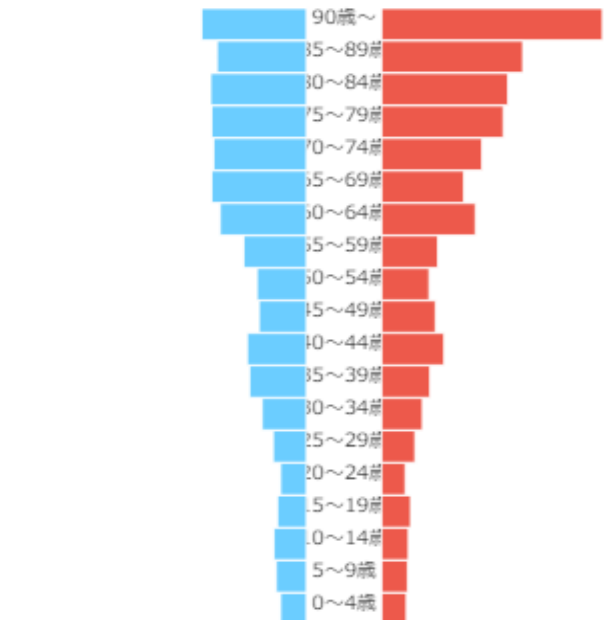
2010年

■ 男性 ■ 女性



2040年

■ 男性 ■ 女性

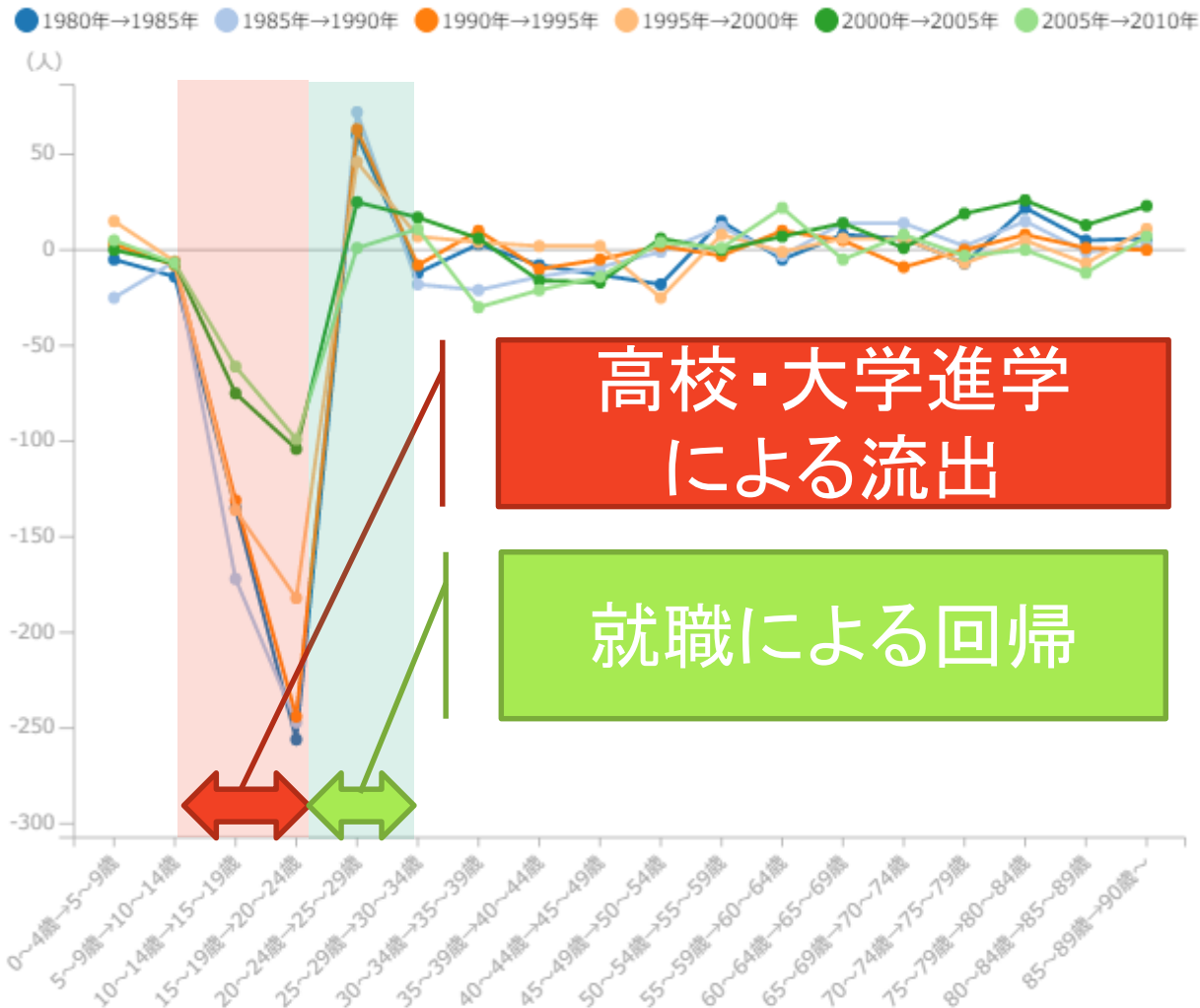


牟岐町の課題

牟岐町の課題①～高校がないことによる人口流出～



徳島県牟岐町 年齢階級別純移動数の時系列分析



- 牟岐町においての出生率は、1.42で全国的にほぼ平均した値。
- 義務教育課程までは、人口はほぼ変化はない。
- 牟岐町には、高校がないため中学校卒業後に町外へ転出したり、町外の高校に進学する子が大半。(※1)
- いったん、町外に転出した人の2005年では、7.98%しか戻ってこない。(※2)
- 就職による回帰も年々その割合も減少している。2010年現在0.41%(※3)

※1:この純移動数は、町内に住み町外の学校へ通学している生徒数は含んでいないため、潜在的にとっても多い。

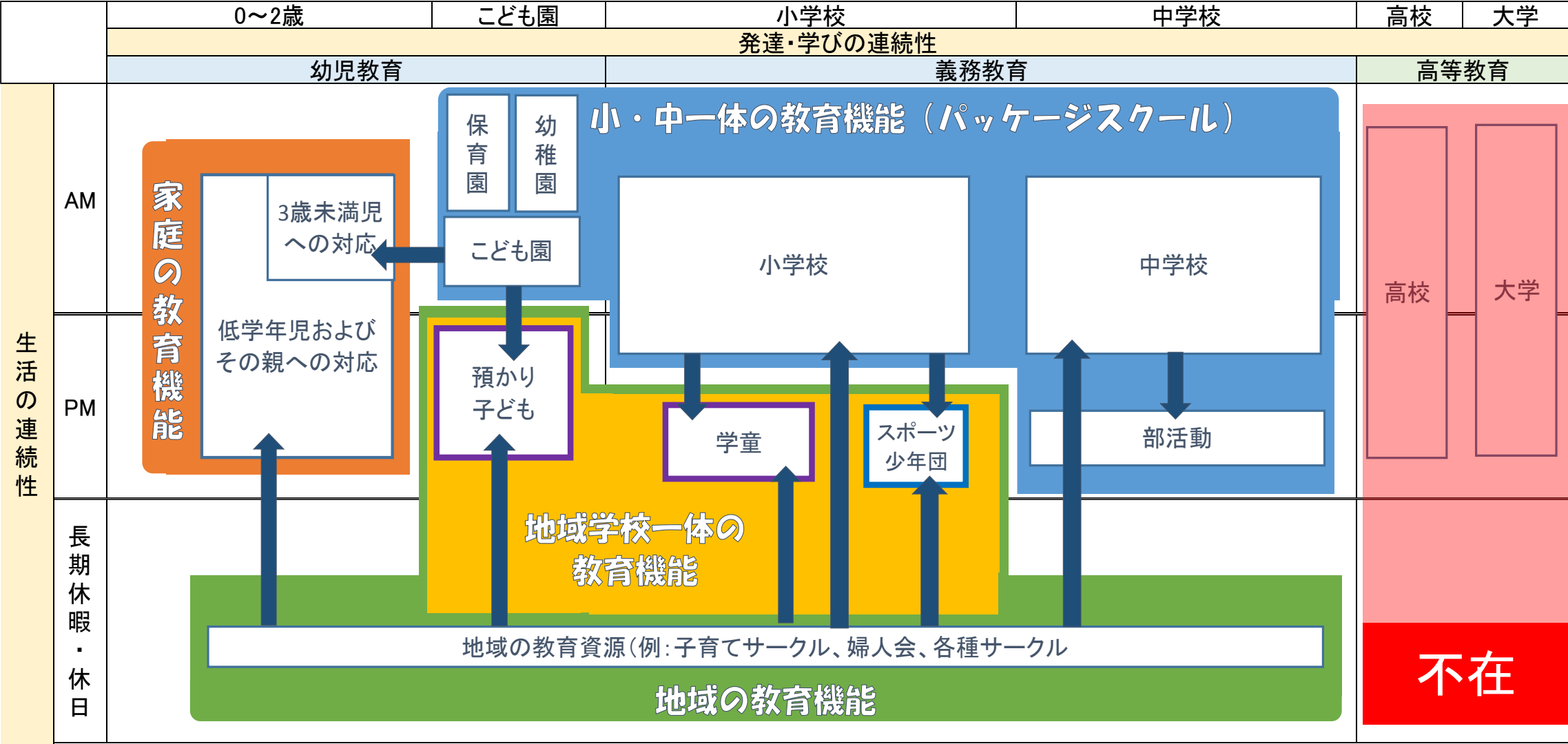
※2:2005年Resasデータをもとに筆者算出

※3:2010年Resasデータをもとに筆者算出

牟岐町の課題～高校の不在（システムの側面）～



牟岐町の今までの教育環境の整理と提案

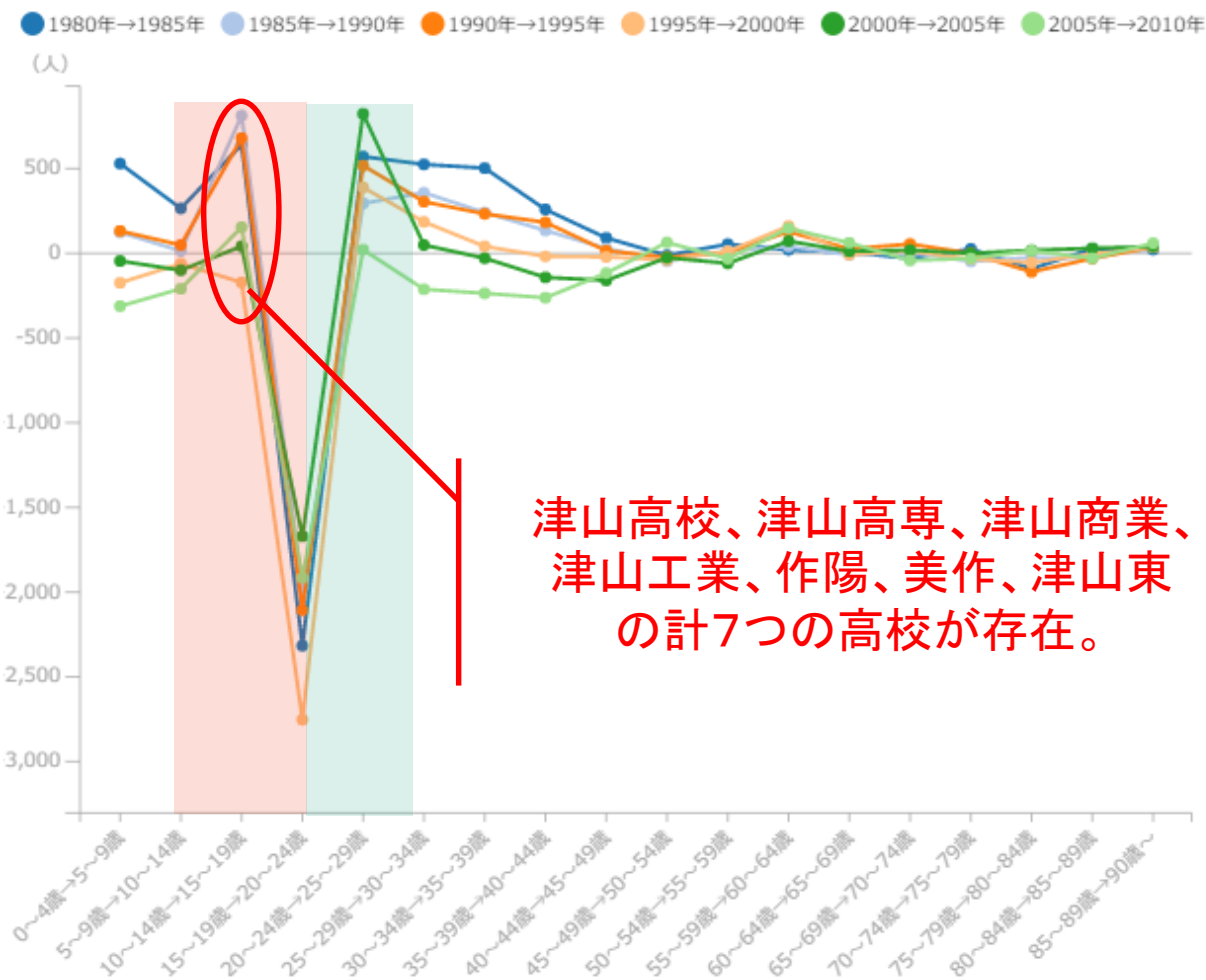


若年層の町外への流出
多様な教育機会の不足

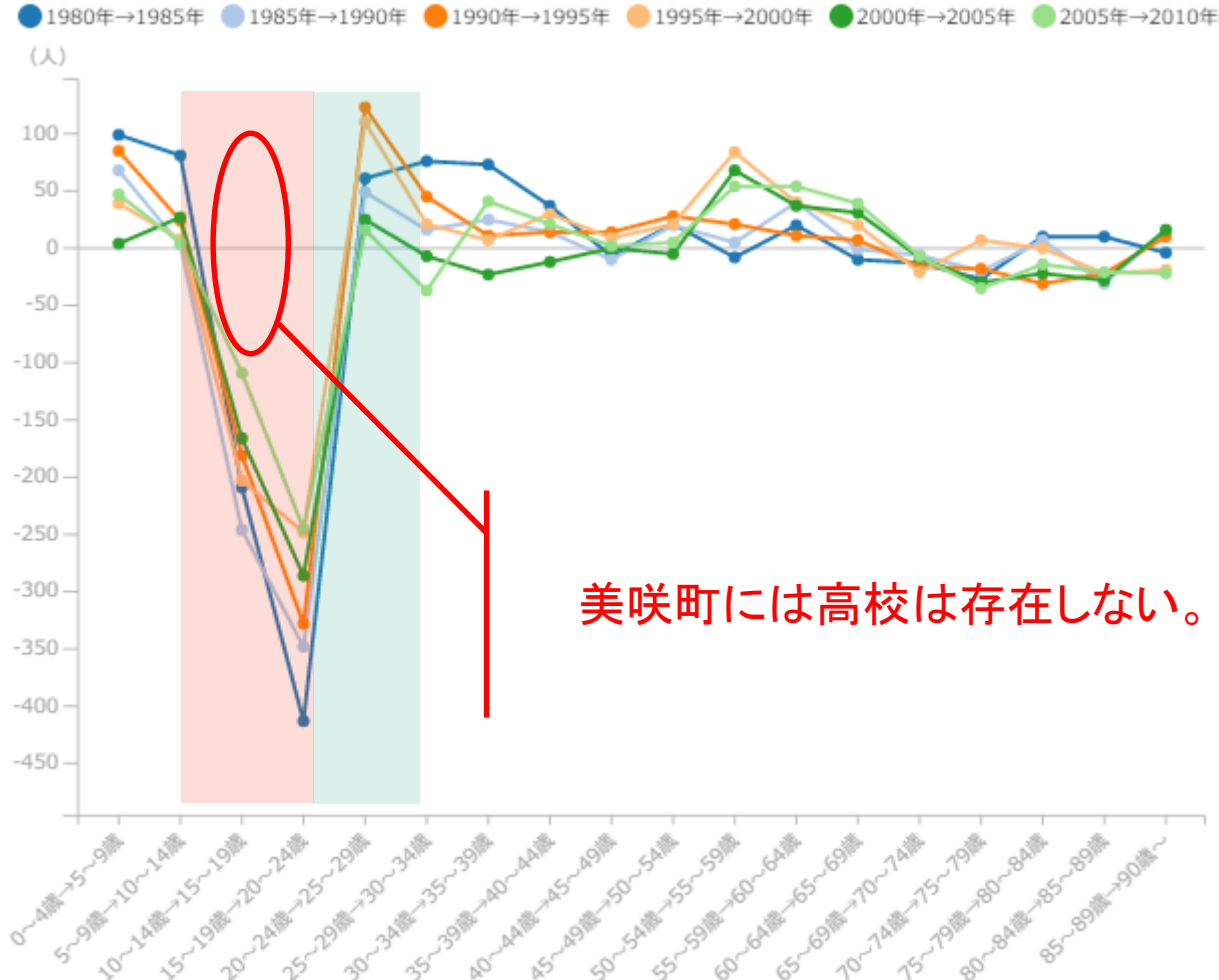
参考に

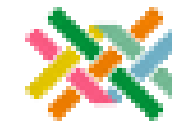


岡山県津山市 年齢階級別純移動数の時系列分析



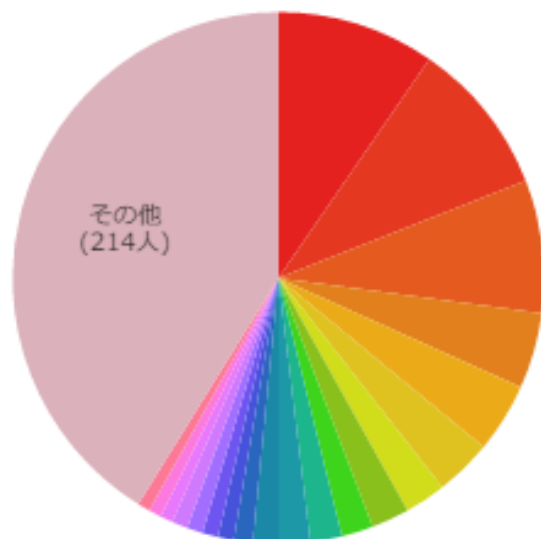
岡山県美咲町 年齢階級別純移動数の時系列分析





転入数内訳

総数 20歳代未満



- 1位 岡山県鏡野町 50人 (9.6%)
- 2位 岡山県倉敷市 49人 (9.4%)
- 3位 岡山県岡山市北区 42人 (8.1%)
- 4位 岡山県美作市 24人 (4.6%)
- 5位 岡山県勝央町 22人 (4.2%)
- 6位 岡山県岡山市中区 18人 (3.5%)
- 7位 岡山県真庭市 13人 (2.5%)
- 8位 岡山県美咲町 12人 (2.3%)
- 9位 広島県福山市 10人 (1.9%)
- 10位 岡山県赤磐市 10人 (1.9%)

1位 岡山県鏡野町 50人 (9.6%)

→高校なし

2位 岡山県倉敷市 49人 (9.4%)

3位 岡山県岡山市北区 42人 (8.1%)

4位 岡山県美作市 24人 (4.6%)

牟岐町の子ども課題



- 教員、保護者、地域、教委とで構成される、『牟岐町子どもを育てる会』で牟岐の子どもたちの現状と理想像について話し合いが行われた。（社会人基礎力の低さ）

現状

①素直、思いやりがある



②自主性・主体性に欠ける



理想

①協調性がある



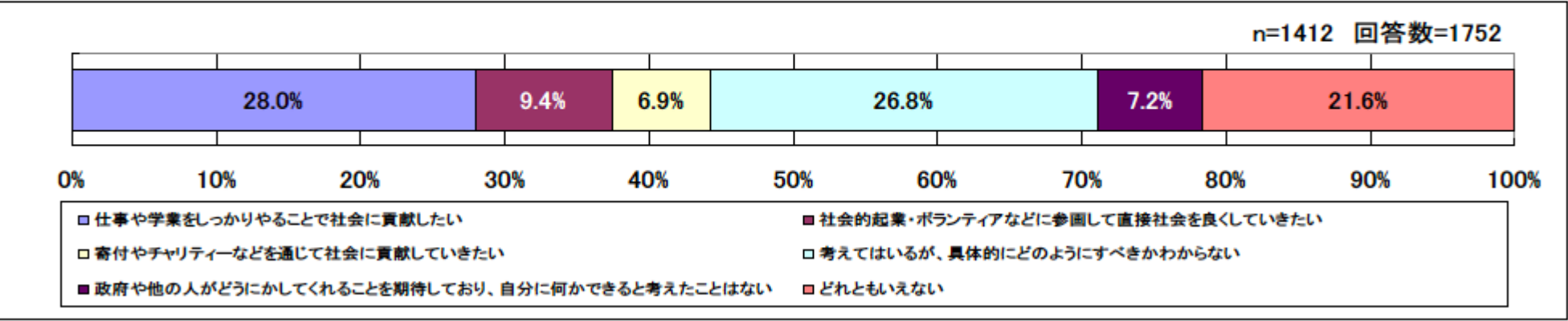
②自主性・主体性がある



大学生のニーズ

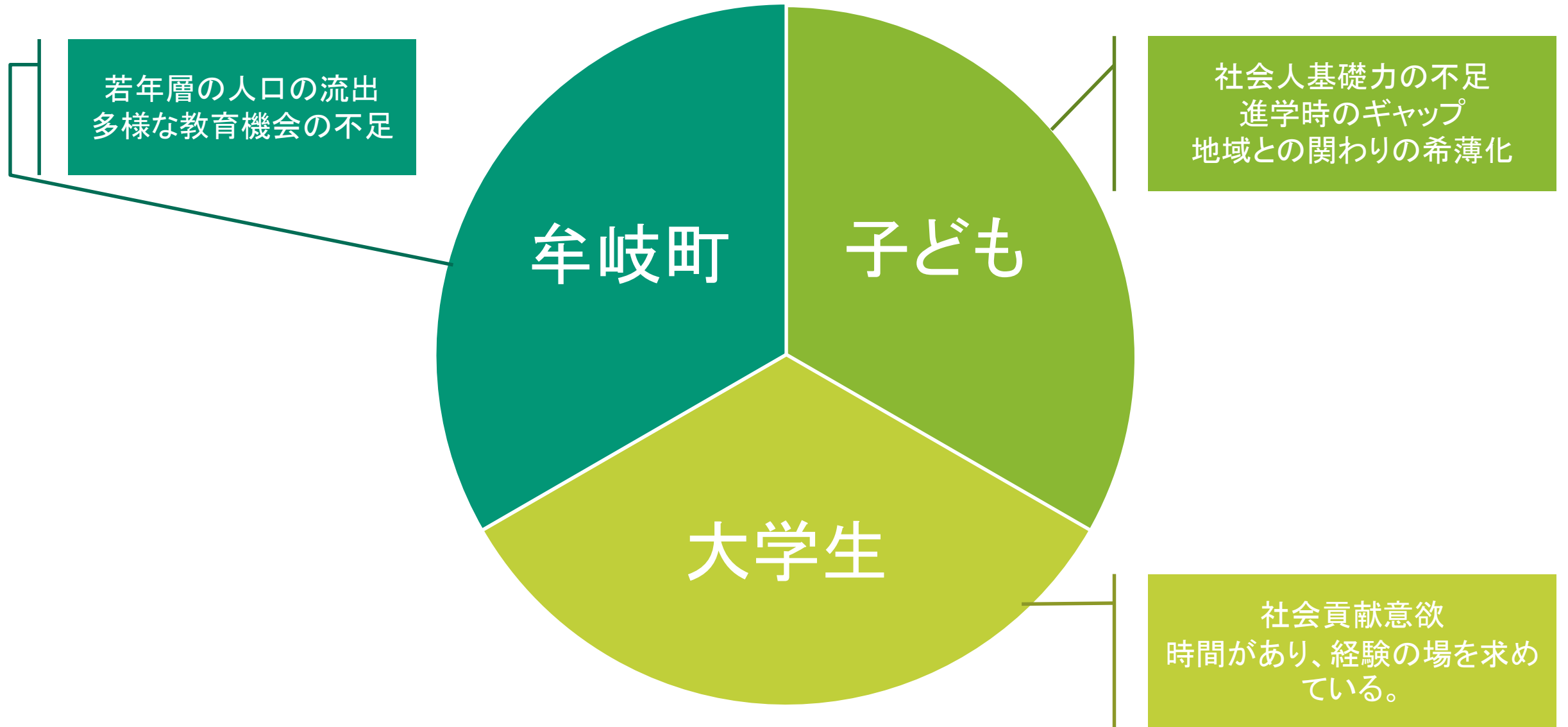


図表 9 日本の未来を良くしようという意欲(全体)



出典:厚生労働省「若者の意識に関する調査2013」

社会貢献意欲の高い若者の増加



シラタマ学級

シラタマ学級発足まで





牟岐町教育委員会では、平成26年度の3月5日に「牟岐の子どもを育てる会」を立ち上げ、牟岐の子どもをいかに育てるかについて協議を重ねてきた、

牟岐の子どもを育てる会 メンバー

老人会

民生委員

スポーツ
少年団

中学校PTA

牟岐町
産業課

小学校PTA

公民館長

中学校

小学校

教育委員
会

保育園保
護者会

保育園

■ 牟岐の子どもに育てたい力：コミュニケーション力

- 主体性(自分らしくする力)
- 協調性(周りを認める力)

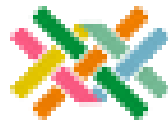
育てたい力育成のために

いろいろな体験・経験をさせる。

大人が体験の機会を与えるだけでなく、子ども自らが考え企画運営する。地域・家庭・学校・教育委員会は地域総ぐるみで、子どもたちの目標実現のため、サポートする。

→ 地域側の受け皿の育成

シラタマ学級発足まで





HLABは異なるバックグラウンドや思いを持った学生が集い、「リベラルアーツ」をテーマに行われる8泊9日間のサマースクールです。期間を通して、ハーバード大学をはじめとする海外大生によるセミナー、トップリーダーによる講演、大学生との会話から刺激を受け、高校生が主体的に進路を選択するきっかけ作りを目的としております。



シラタマ学級の経緯



牟岐町

牟岐の子どもを育てる会発足
2014年3月

HLAB徳島
2014年8月

シラタマ学級開始
2015年3月



HLAB
徳島

HLAB徳島発足
2014年2月～3月

準備期間
2014年3月～8月

HLAB徳島
2014年8月



ひとつむぎ

HLAB徳島
2014年8月

ひとつむぎ発足
2014年10月

シラタマ学級開始
2015年3月



「サマースクールに関わってみて、子どもたちの人生のために、何が必要か、何が効果的なのかを感じました。大人の目線で、教育を与えるのではなく、年齢の近いお兄さん、お姉さんの大学生と活動することで、その生き方にあこがれ、人生の目標とし、自らが歩み出すと感じた。また、大人は生きてきたそれまでの経験から、実現できる可能性、結論を伝えてしまうが、**大学生は、可能性を否定しないで共有、共感することが出来る。**（中略）。HLAB、ひとつむぎのメンバーを見た時に、**今、社会で生きていくために必要な力が何か、大人の私たちよりも理解していることがあると感じた。**単純に、多様性を持った大学生と関わることで、私自身が学ぶことが大きいと感じた。**その大学生と子どもたちが活動することで、子どもたちの学びも大きいと考えた。**大学生と活動することで、子どもたちの周りの大人たちが変わることは、子どもたちの人生の選択の機会が増えると考えた。実績がないから、活動の中で、大学生、中学生がともに、学ぼうとするところが、中学生、大学生である参加した地元の人材を両方育てることが出来ると考えた。」（牟岐町教育委員会職員へのインタビュー）

→町外の大学生を受け入れやすい土壌整備へ



サマースクールは、単なるイベントではないか？

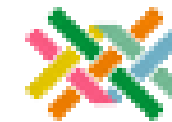
地元に残せたか？

地域に根付いた、継続的な支援を行うべきだ！

地元とHLABをつなげる中間支援のような組織を！

⇒ひとつむぎ発足へ

シラタマ学級の経緯



徳島サマースクールをきっかけに発足したひとつむぎと教育委員会とが以下のような時系列で関係しあった。

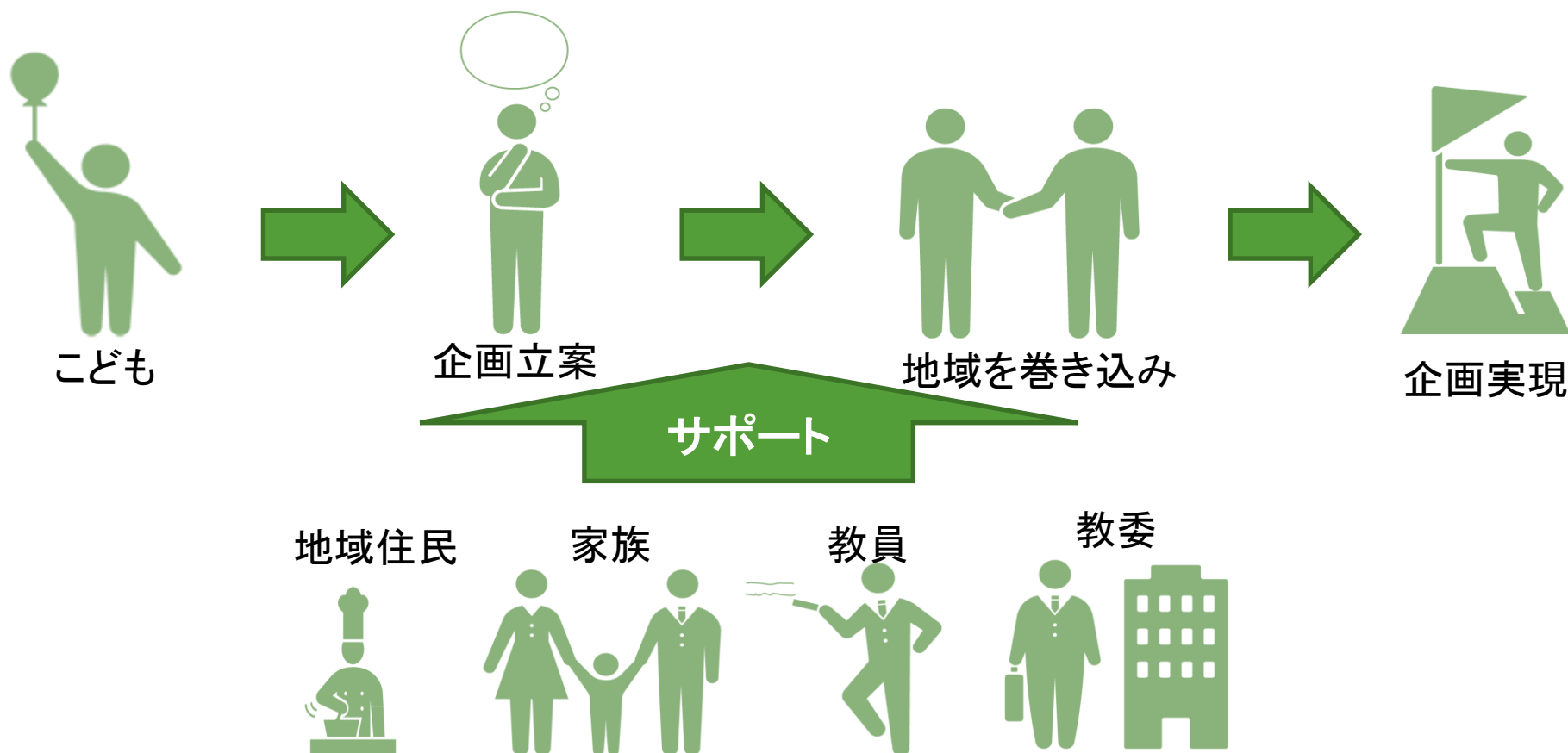


シラタマ学級概要

シラタマ学級の概要



- 子ども自ら地域の課題を解決できる企画を立案し運営する。
- 地域・家庭・学校・教委は地域ぐるみで、子どもたちの目標実現のため、サポートする。





実施内容

Phase 1 事前学習

3月16日実施

- ・ 中学校生徒会メンバーと、大学生とのアイスブレイクと座談会

4月2日実施

- ・ アイスブレイク
- ・ 課題発見ワークショップ
- ・ チーム名決定
- ・ プレゼンテーション練習

4月6日実施

- ・ 小・中学校でのメンバー集めプレゼンの作成と練習

4月17日実施

- ・ 生徒会による小・中学生へのプレゼン
- ・ ブレスト体験

5月9日実施

- ・ メンバーと課題解決の方法をブレスト
- ・ 企画書を作り、牟岐町長へ提案

Phase 2 体験学習

5, 6, 7月実施

- ・ 地域の方と一緒にイベント内容ツメ、

8月26日実施

- ・ 中間リフレクション(全体目標の再確認・イベントの達成基準の策定・自分自身の目標を再確認)

8月30日実施

- ・ 8.30 むぎいろフェスティバル実施

Phase 3 事後学習

9月14日実施

- ・ 中学生対象の事後リフレクション

9月20日実施

- ・ 町の方も交えた全体リフレクション

活動風景～アイスブレイク～





活動風景～企画案を町長に中学生が提案～



活動風景～地域住民とのワークショップ



活動風景～買い出し風景～





活動風景～町長セッション～



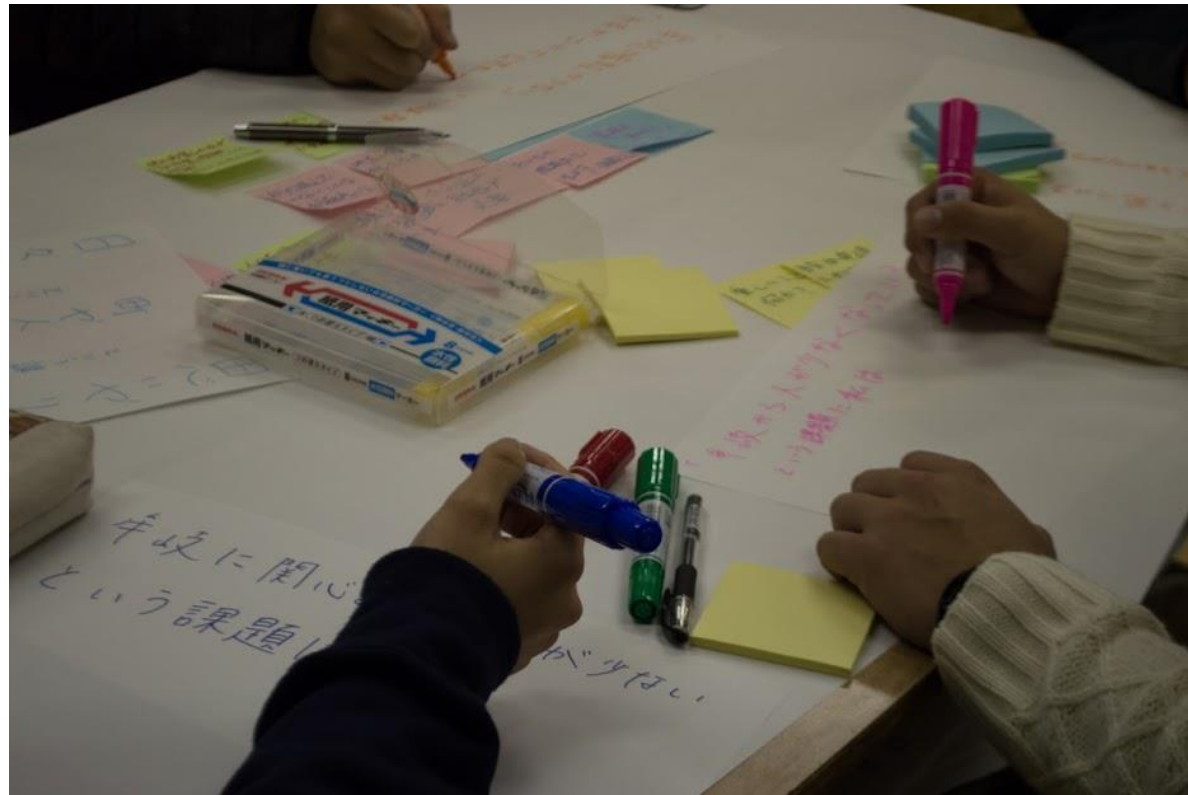


活動風景～全体写真～





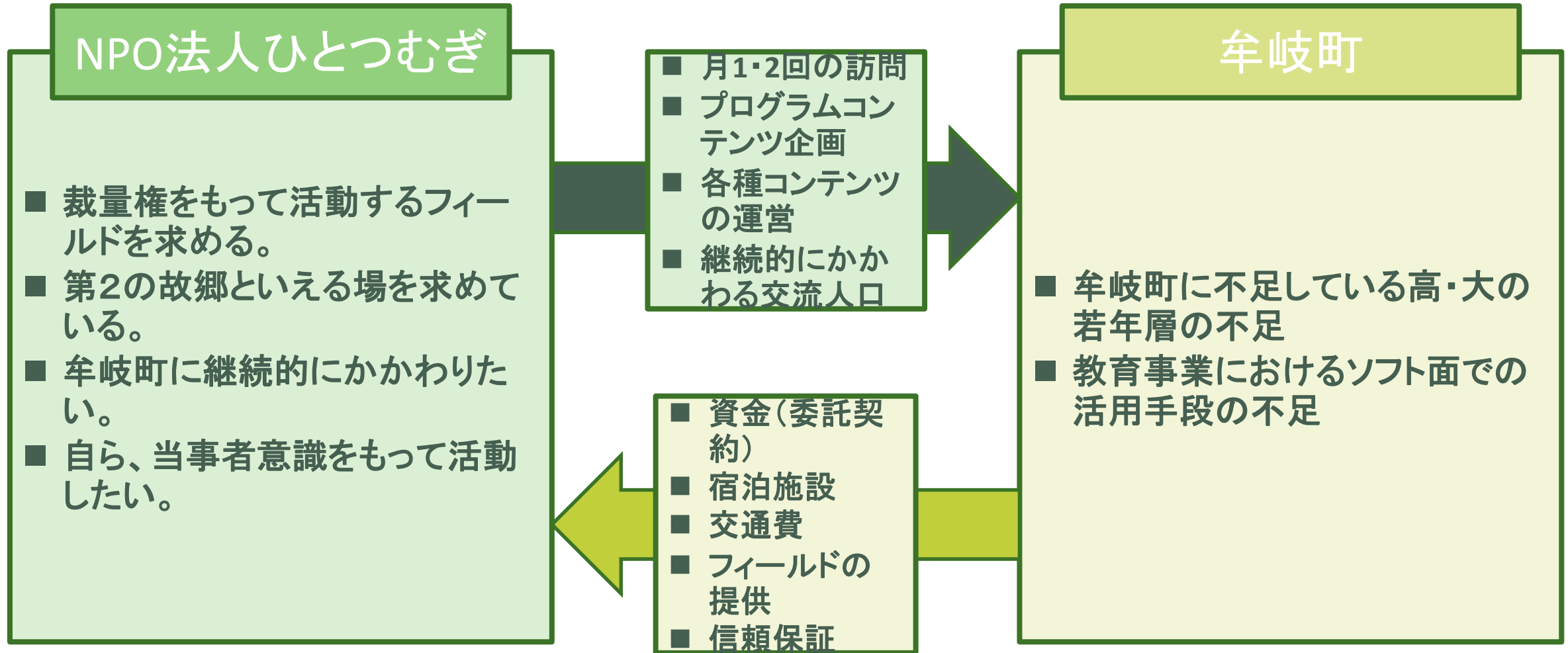
リフレクション



受容と肯定



行政 × 大学生 ～協働において重要なこと～





簡単なやつ
任せてみる

ちょっと難しめの
やらしてみる

何かし
たい！

何させ
よ？

何がで
きる？

大：意外
とやれ
るかも。

町：意外
とやれ
るんじや
ない？

パートナー
へ

2015年2月くらい

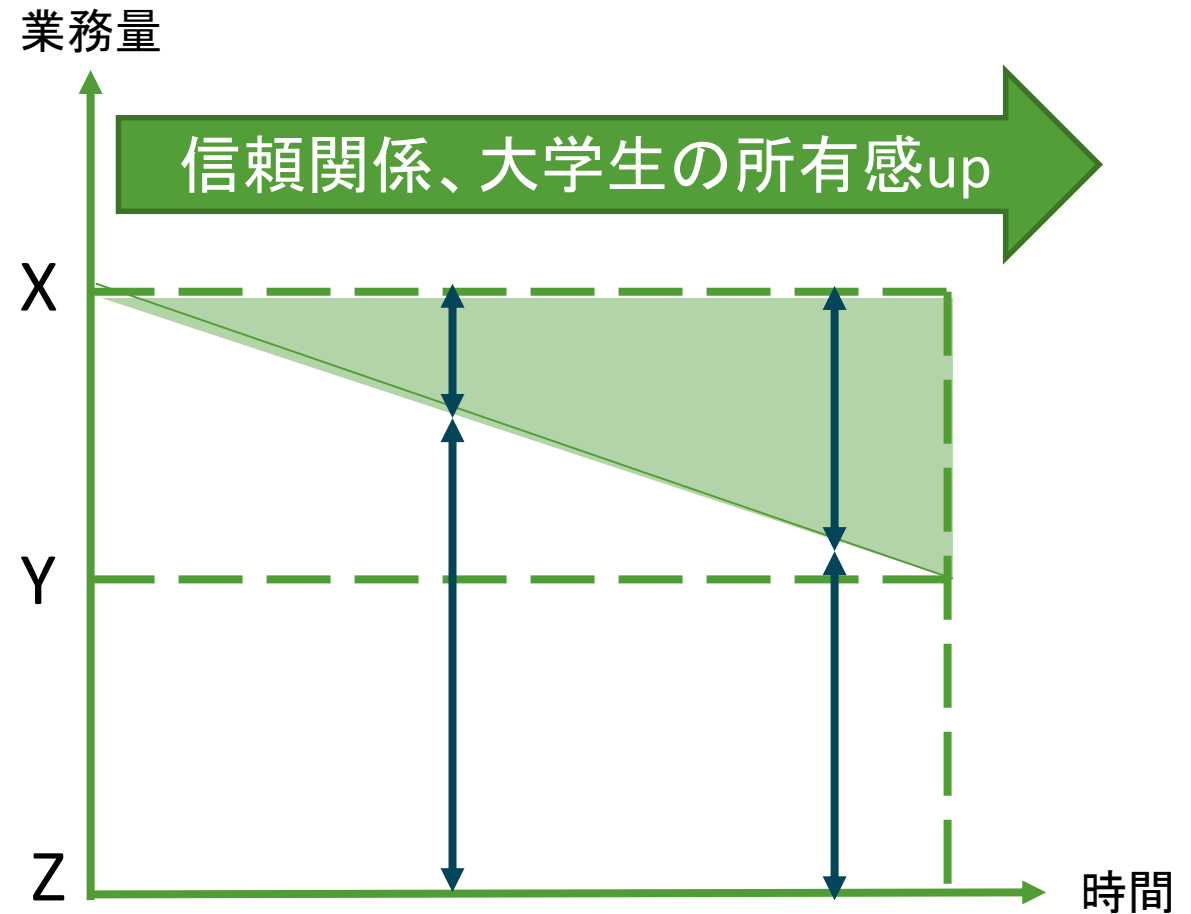
2015年3月くらい

2015年4月

段階的に大学生を導入していった。



- 当初業務量: $Z-X$
- 最終的に..
 - 牟岐町業務量: $Z-Y$
 - ひとつむぎ業務量: $Y-X$
- 相互間で作りこみながら事業を実施。



行政との距離感

最初から100点は取れない。
60点でもいいほう。

ミスをしてても多めに見てほしい。

⇒だからこそ、作りこんでいく

できそうなところから任せていく。

大学生の想い





■ 徳島県出身

■ 大学1年生

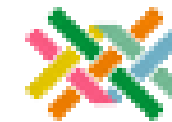
■ 「行政と一緒に大学生が事業ができることに魅力を感じている。」

■ 「活動にかかわる大学生間や社会人との交流や学びが魅力！」

■ 「自分自身もこのフィールドを使い成長したいと考えている。」



- 徳島県在住
- 大学院2年(教職大学院)
- 「教師を目指していて、教育に対して行政と大学生がともに歩調を合わせて取り組んでいるのが魅力的」



- 徳島県牟岐町出身
- 大学3年(地方創生専攻)
- 「サマースクールがあってから、地元に対して自分自身も何ができるかを考え行動をしている。」



- 徳島県出身
- 大学1年生(医学部医学科)
- 「将来、地域医療に関わりたい。そのとき、患者さんの声なき声まで配慮できるようなそんな医者になりたい。教育事業で中学生とかかわる中で、そのスキルを磨きたい。」



- 大阪府出身出身
- 大学4年生(情報科学専攻)
- 「牟岐町の自然と人に惚れ込んだことがきっかけ. ひとづくり, まちづくりのプロジェクトだけではなく, 法人のバックオフィスの経験もできる点は貴重. 」

牟岐町の

「フィールド」

そこに集まる「ひと」

手触り感

後ろ盾の存在

||

信頼保証

100%の理想は実現できない
⇒泥臭さ、粘り強さ。

プログラムの成果



評価手法に関しては、経済産業省が提唱している「社会人基礎力」の3つの能力及び12の能力要素を活用し、参加生徒のうち中学3年生13名に対して、活動の事前・事後の変化を明らかにするためのアンケート調査を行った。経済産業省が作成した「学生のレベル別行動事例」を配布し、それを参考に「社会人基礎力レベル評価基準表」を用いて生徒が、受講前と比較し、どの程度能力が向上したかに関して自己評価アンケートを行った。

取り組みの成果①社会人基礎力の向上、交流人口の増加



能力	能力要素	変化
前に踏み出す力	主体性	+0.6
	働きかけ力	+0.5
	実行力	+0.6
考え抜く力	課題解決力	+0.2
	計画力	+0.3
	創造力	+0.6
チームで働く力	発信力	+0.3
	傾聴力	+0.3
	柔軟性	+0.7
	状況把握力	+0.3
	規律力	+0.7
	ストレスコントロール力	+0.5

- 全項目において社会人基礎力の要素能力の向上が見込まれた。(左表)
- 事後アンケートによって、3段階評価で平均0.46ポイント上昇がみられた。(左表)
- 2015年4月1日～翌年3月31日までで事業に関与するため牟岐町を訪れた大学生の総数は34名、延べ人数では126名、社会人の総数は10名、延べ人数では、21名となっている。
- 大学生の平均訪問回数は3.7回であり、最多訪問回数は23回である。
- 大学4年生の中で就職後も継続的に牟岐町にかかわりたいと全員が表明。



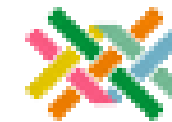
取り組みの成果②人材育成を町の総合戦略の中核化

「1) 人材育成と健康を核とした取り組みの展開
牟岐町総合戦略は、本町のまち・ひと・しごとの創生に関わるあらゆる分野を総合的・包括的にとりまとめたものであり、本戦略の推進にあたっては、先行的・重点的に取り組むべき施策を明確にし、着実に施策を展開していく必要があります。

そこで、「人口減少の中、全ての施策において『人』が主役である。また全ての人が活躍するためには『健康』であることが必要である。」との観点から、「**人材育成**」と「**健康**」を核として、**地域が一体となって、本町の地方創生に向けて様々な取り組みへの展開を図っていくこととします。**」(総合戦略)



■人材育成を核とした取り組みの展開 (イメージ)



背景

- 前述のように牟岐町には高校が存在しない。しかしながら、シラタマ学級参加生徒から高校進学後も継続的に牟岐町にかかわれるようなプラットフォームの作成の要望があり、牟岐町がバーチャルな高校プラットフォームとして、ローカルハイスクール構想を提唱。

概要

- 休日や長期休暇中において事業を実施。
- 現在、月1回高校生を対象に大学生及び社会人が、**相談カウンター**を実施し、高校生のニーズの把握と各種セミナーを実施。
- また、長期休暇中に**サマーキャンプ**を実施し、主体的なキャリア選択などを行うための情報および価値観の提供。

サマーキャンプ



ローカルハイスクール年間計画(ひとつむぎ作成)



ローカルハイスクール年間計画

高校生の現状

9月～11月の間に、高2生は科目選択や志望校設定、高1は文理選択など、今後の人生を大きく左右する選択を行い、その判断材料の提供が夏に求められている。

部活動や勉強できわめて多忙な日々を過ごしている。

勉強面に対しての不安解消のニーズが大きい。

職業は教師か公務員しか知らず他の職業を知らない。

目先の勉強が不安で将来のビジョンを描けない。。

サマーキャンプ

スプリングキャンプを見据え、子どもたちが主体的な判断を行うための「軸の形成」と「情報の提供」を行う。

大学生活のリアルな話や就職後の社会などの現状や将来について知ってもらい、多様な視点や職業について理解を深める。

生徒たちに、スプリングキャンプまでの目標設定を行ってもらい、その目標設定に高校生は取り組んでもらう。また、この目標設定をもとに、ひとつむぎは、9月以降の相談カウンターの内容を詰めていく。

ウィンターセミナー

- ・ 日帰り1日で実施を行う。
- ・ 夏のサマーキャンプの中間リフレクションのような位置づけ。
- ・ スプリングキャンプに向けてのサポートを行う。

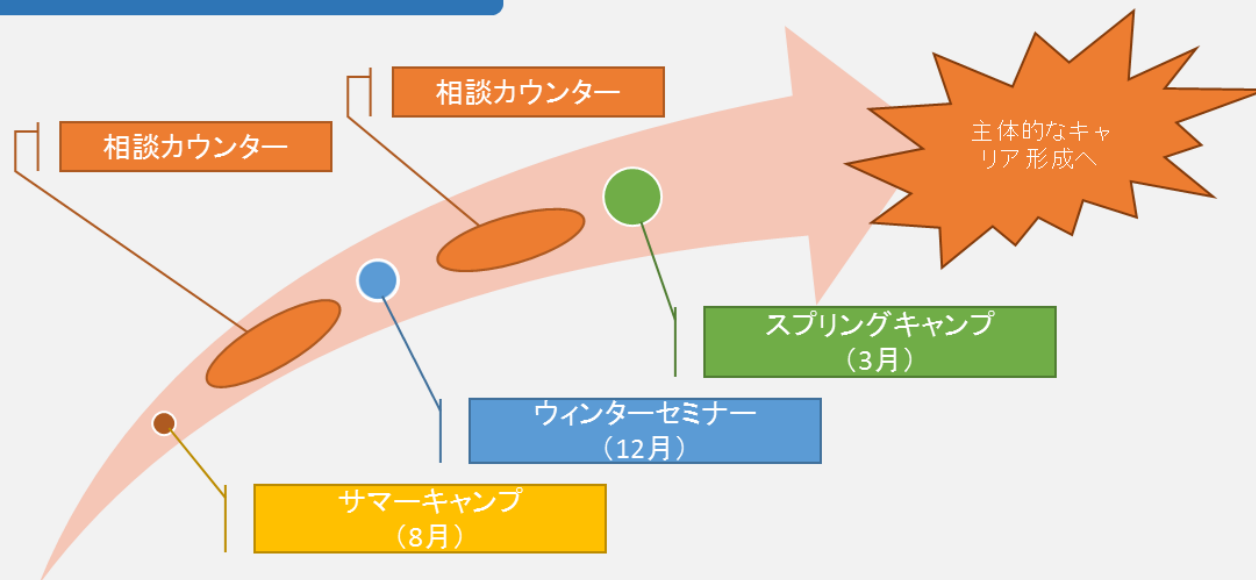
相談カウンター

相談カウンターは、春・冬・夏のイベント流れの中で位置づけを行い、そのコンセプトは以下の3点である。また、2回に1回は長時間のコンテンツとする。

高校生のニーズとして最も大きい勉強面における自律的学習のサポート、支援。

サマーキャンプ時に作成した自身の目標に対してのコーチングによるフォローアップ。

将来の職業などについて理解を深めるためのワークショップやセミナー



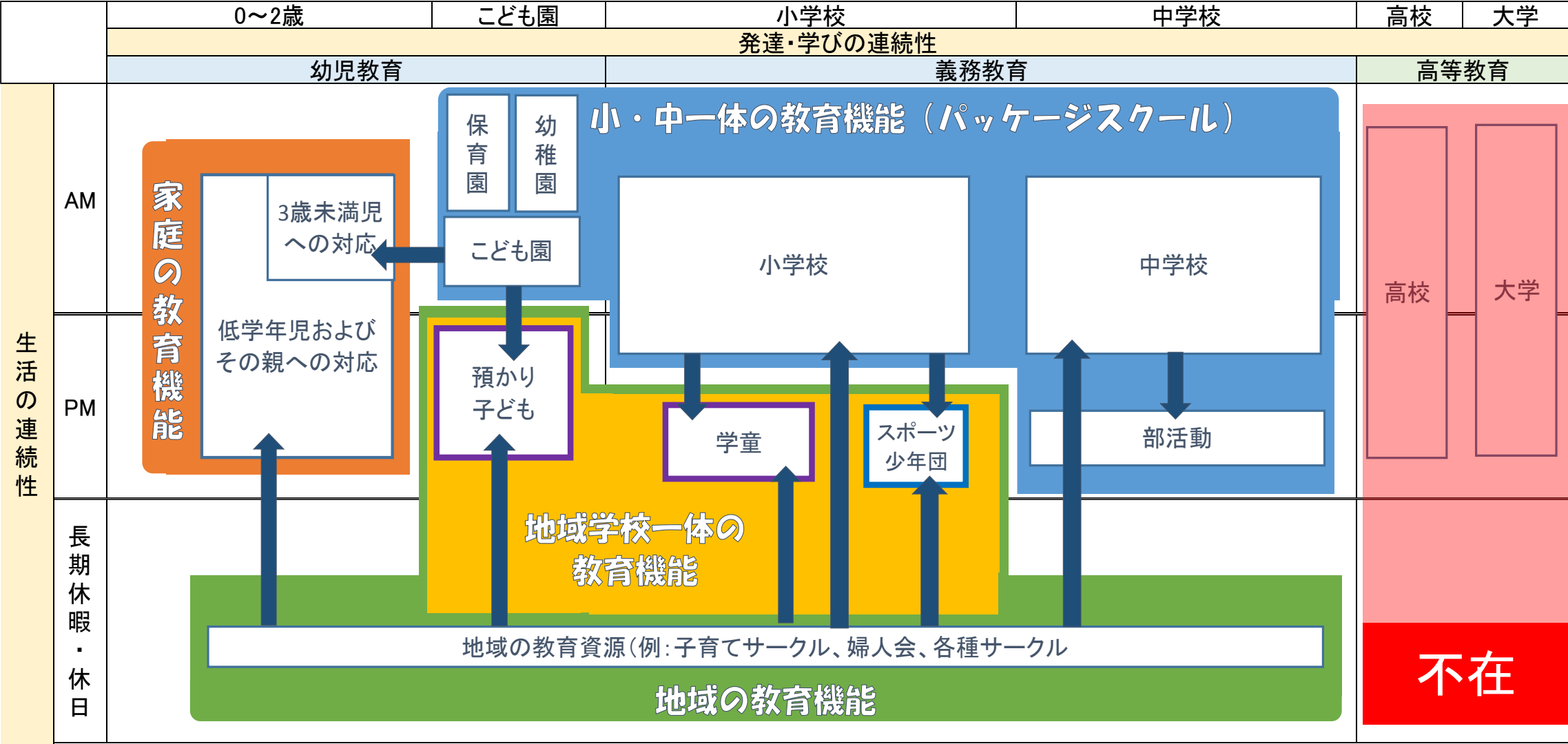
スプリングキャンプ

- ・ 宿泊型で実施する。
- ・ 高校生が主体的に取り組む活動をメインとする。
- ・ 今年度のゴールで、夏や冬のキャンプなどは、春を見越した布石として実施する。

牟岐町が抱える課題～高校がないことによる教育的課題～

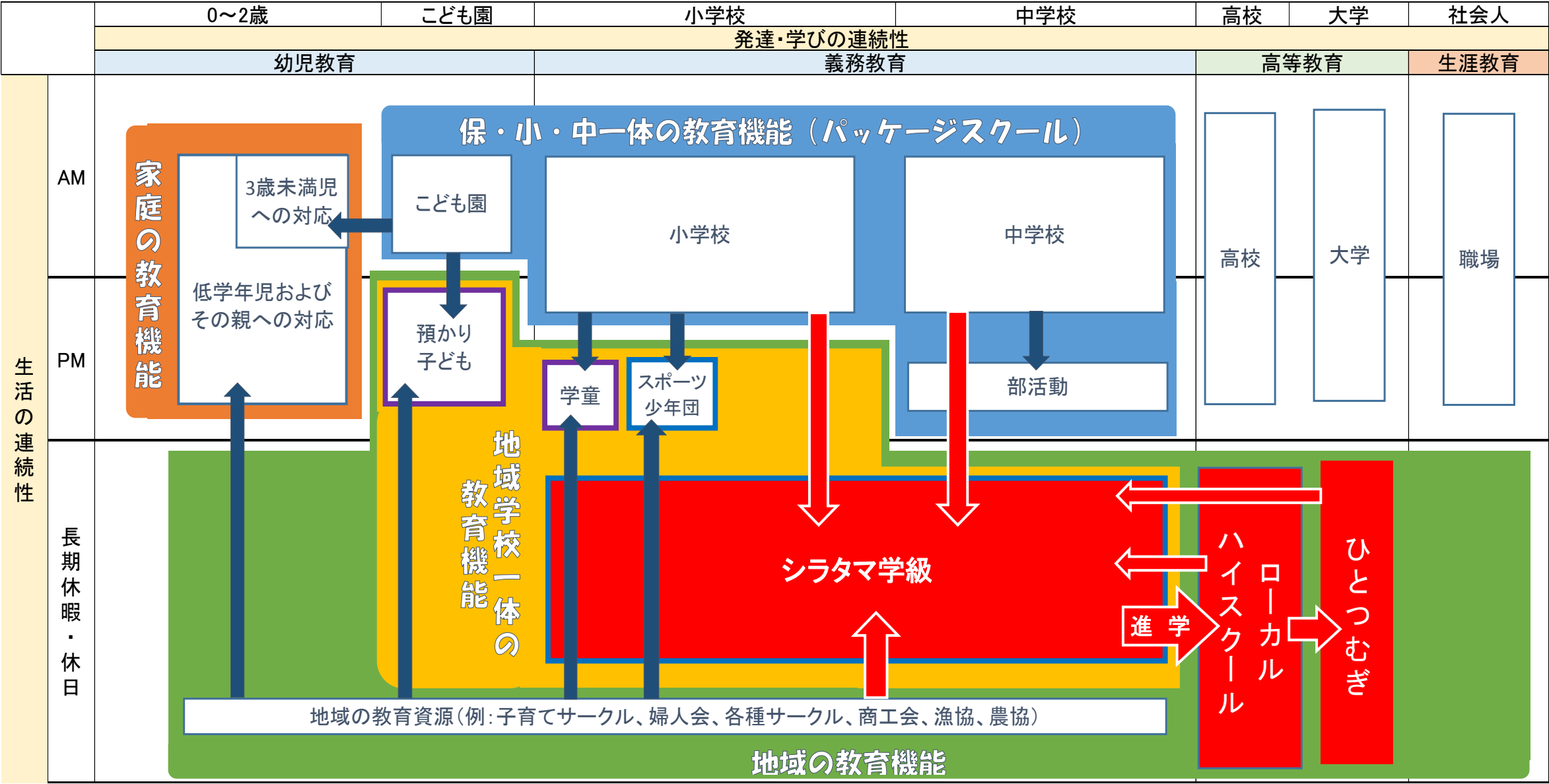
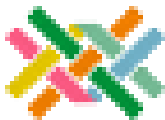


牟岐町の今までの教育環境の整理と提案



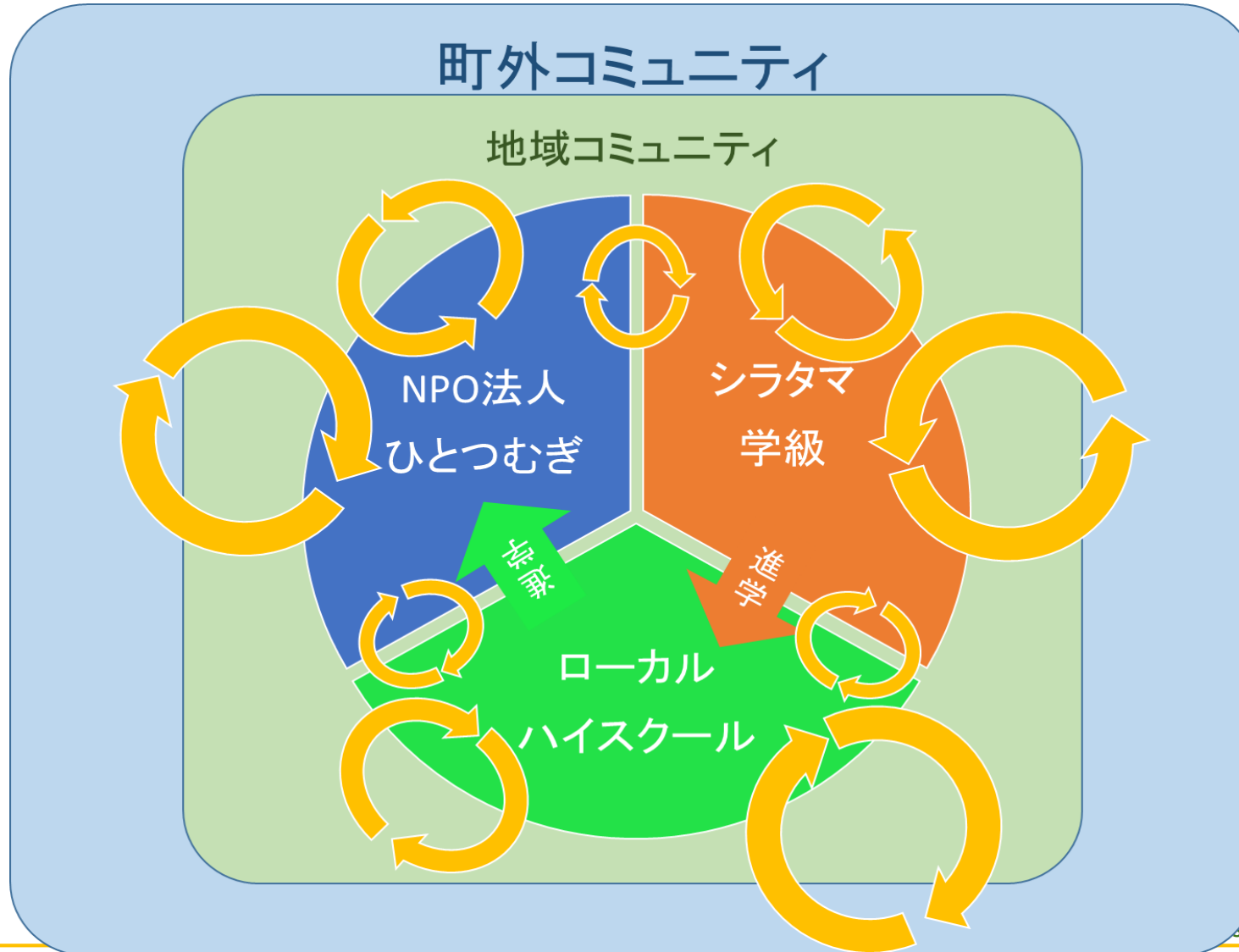
シラタマ学級の全体像3～牟岐町全体～

あらたな教育モデル





牟岐町で目指す人材育成・交流プラットフォーム



- 牟岐町はシラタマ学級やローカルハイスクールといった取り組みによって教育課題の解決を行うのみならず、その取り組みに町内だけでなく、町外の人材も積極的に登用することで、結果的に人材育成・交流のプラットフォームを整備してきた。
- 町内外の人材が継続的に人材育成に関与、交流することで、牟岐町は新たな「人の循環」と「マナビ」を創出し、課題解決を行っている。この取り組みは、既存の産業・定住人口重視のアプローチから人材育成・交流人口をベースとした新たなまちづくりのアプローチの可能性を示しているといえるであろう。